

令和4年度 学校経営計画・自己評価書

足立区立弥生小学校

校長 佐藤 利之

1 学校教育目標

- 自ら考え進んで行動する子 ○ 心も体も鍛える子 ○ 仲良く助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の学習課程を計画的に実施し、児童に確かな学力を培う学校 ○ 児童が生き生きと学び、自らの成長を実感できる学校 ○ 保護者や地域と力を合わせ、児童の安全と健全育成に努める学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に集中して取り組み、学ぶ楽しさを味わえる児童 ○ 挨拶、靴揃え、廊下歩き等の品格のある行いを身に付けた児童 ○ 友達と仲良く、協力して活動することで、自分のよいところを伸ばす児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のよさや課題を的確に捉えて、褒めて伸ばす教師 ○ 協働意識をもち、学校経営に貢献する教師 ○ 保護者・地域と協力し合って、児童の健全育成に努める教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 令和3年度の区学力調査では、通過率（2科平均）が区平均を3.4ポイント上回った。
- コロナ感染対策により、教育活動や学習形態を制限・変更しながらも、授業時数を確保し、教育課程を実施した。
- 特別支援の2教室（難聴・言語障がいと情緒障がい）設置校として、きめの細かい個別支援を行っている。

【前年度の成果】

- 大型ディスプレイやタブレット端末を活用した授業やリモート活動を進めて、ICT教育を展開した。
- 心の三名人や学習の約束に取り組んで、児童に品格ある行動を理解させた。
- 調査の結果を基に、学年の重点種目を決めて取り組み、体力・運動能力の向上を図った。

【今年度の課題】

- AIドリルを活用し、学習の個別化を図る。
- 品格ある行動を広める。
- 柔軟性と持久力を養い、運動の楽しさを味わわせる。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	◎	○	◎	○	◎
2	品格向上	○	◎	○	◎	○
3	体力向上	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
昨年度に引き続き、区学力調査の通過率が区平均を超えるよう、基礎・基本を大切に授業を行い、児童に学ぶ楽しさを味わわせる。		今年度の区調査通過率（区平均を2科目とも）上回ること 2月調査の平均正答率が4月の結果を上回ること		今年度の通過率は国語 87.0、算数 84.2 で、国語は区平均を 4.9 上回ったが、算数は 0.1 届かなかった。		学校全体の2教科通過率は区平均を 1.9 ポイント上回ったが、2,3 年の算数は区平均に届かなかった。特に計算の定着が弱い。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	AL(エーエル＝ アダプティブ・ ラーニング)タイム	3 年以上 5 教科	15 分間 週 2 回	児童用タブレットの AI トリルを使った個に応じた最適な学習	AI トリルの管理 ツールを使った 学習状況把握	AL タイムの実施 前期 20 回、 後期～12 月迄 15 回	AL タイムの実施回数は 2 年以上で 12 月までに 35 回以上を超えた。	AL タイムにタブレット端末 を活用せず、別の学 習課題に取り組んで いる学級があった。	○
2 新規	漢字コンテスト ・ 計算コンテスト	2 年以上 国語算数	月 1 回 BS(ベーシック・スキル) タイム	漢コン：既習漢字の読み・ 書きテストの実施 計コン： 四則計算テストの 実施	テスト結果の 回収と表彰	テスト結果 80 点 以上の児童が クラスの 8 割	今年度は計算コンテスト を行わず、漢字コンテスト に向けた学習と検定 を実施した。	漢字コンテストの通過率 (合格者数÷受検者 数) は 58.7%だった。	○
3 継続	ステップアップ タイム(朝学 習)	全学年・ 国語	15 分間 週 3 回	1 年：MIM の練習とアセスメント 2 年以上：新出漢字の学習 と読み方や語例の習熟	年間 90 回以 上の実施 担任からの 報告	前期 40 回、 後期 12 月迄に 25 回以上の 実施	ステップアップタイムの実施 回数は 2 年以上で 12 月までに 65 回以上を クリアした。	次年度も漢字ドリルを 使用した新出漢字の 学習を継続する。	○
4 継続	読む力の 向上	全学年・ 主に国語	毎授業 通年	①教科書の音読(全学年) ②単元テストの一斉読み(低) ③国語辞典の活用(中高)	①③児童アンケートの回答 ②担任からの 報告	①③は yes 回答 が児童の 8 割 ②は 1, 2 年担任 の全員	①音読の Yes 回答は 76.6%③辞典の使用 は 54.4%だった。	タブレットを使うようになり、 教科書の音読 や国語辞典を利用する 頻度が低下した。	○
5 継続	家庭学習 の定着	全学年・ 全教科	週 5 日 長期休 業中を含む	1, 2 年：宿題 20 分 3, 4 年：宿題＋自学 40 分 5, 6 年：宿題＋予習型自学 ＝60 分以上	1, 2 年：担任 からの報告 3 年以上：児 童アンケート回答	家庭学習をし ている児童が クラスの 9 割	家庭学習を行って いる児童は 93.2%だっ た。	家庭学習の実施率は 高いものの自主学習 の内容にばらつきが ある。	○

重点的な取組事項－２		品格向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の規範意識や帰属意識を培うことで、自己肯定感を高め、品格ある態度や行動を身に付けた児童を育成する。		児童アンケート（中・高学年対象）で各項目に Yes と回答する児童の割合が、対象児童の 8 割を超える。	品格に関する児童アンケートの 5 項目の総計が、92.7%で目標を超えた。	規範意識や帰属意識は定着し、落ち着いたきのある教育活動が進められている。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習や生活のきまりである「弥生スタイル」を週目標や授業で取り上げ、きまりを守る態度を養う。	児童アンケートで、「きまりを守っている」「学習に集中している」と回答する中・高学年の児童が 8 割以上	学習のきまりは、教室に掲示して、児童がいつでも確認できるようにして意識付ける。生活（よい子）のきまりは、週目標に掲げて、期間を限定して取り組ませる。	「きまりを守っている」とアンケートに回答した児童は男女平均 96.6%で「学習に集中している」は男女平均 92.7%だった。共に 9 割を超えて、高い意識が定着している。	「学習への集中」を高めるため、品格チャレンジシート等を活用した取り組みを今後も行っていく。	◎
学級活動や縦割り活動を通して、学級や学校の一員であることの意識を培う。	「相手の嫌がることをしない」「友達のよいところを見つけている」と回答する中・高学年児童が 8 割以上	低学年は帰りの会で「今日のやりさん（友達による行動評価）」を発表し、中高学年は週末の帰りの会に「ナイスプレー（善行）報告会」を開く。	「相手の嫌がることをしない」と回答した児童は 93.4%で「友達のよいところを見つけている」は 91.6%だった。3 年男子は「友達のよいところを…」が 73.9%と低かった。	帰属意識を高めることで、相手を思いやる心が概ね育っている。今後も、いじめの発生を予防する指導を続けていく。	◎
心の三名人（挨拶・廊下歩き・靴揃え）に取り組み、自己肯定感を育む。	児童アンケートで「三名人を心がけている」と回答する中・高学年児童の割合が 8 割以上	三名人行動の重点期間を設けて『三名人カード』に自己評価し、それを担任が精査して、全校朝会でクラス賞を授与する。	「挨拶・靴揃え・廊下歩きの三名人を心がけている」児童は女子が 93.4%だったが、男子は 84.7%だった。クラス毎では、全学級中 14 学級が前期三名人クラスとして、いずれかの項目で表彰された。	三名人の取り組み期間中は、しっかりと意識されている。取り組み期間以外はさらに定着を図る必要がある。	○

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力・運動能力調査の体力合計点の伸長を目指して、多様な運動に取り組み、運動する楽しさを味わわせる。		学年別男女別 12 の集団が体力調査の 8 種目すべて区の T スコアを上回り、児童アンケートで運動の質問に yes と回答する中高学年児童の割合が 8 割以上	測定 8 種目の T スコア（偏差値）において、8 種目中半分以上が区平均を上回った集団は 12 集団中 7 集団だった。	区平均を 4 種目以上上回った集団は半数を超えたが、1 年 5 年は男女とも届かなかった。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1) 多様な運動に取り組み、体力・運動能力を伸ばす。	学年別男女別の 12 集団が 8 種目すべて区の T スコアを超える。	体力調査の弱点種目は、対象児童に補充の運動（トレーニングタイム）を行う。持久力を高める業間運動を行う。	区の T スコアを超えられなかった種目と集団数は、長座体前屈が 7 集団で突出して多かったが、他にもソフトボール投げが 4 集団、50m 走も 3 集団が区平均に届かなかった。	20m シャトルランは業間体育で学級ごとに取り組んだ効果が表れた。柔軟性を高める運動は取り組みが不十分だった。	○
(2) 友達と協力したり、競い合ったりして、運動する楽しさを味わう。	児童アンケートで「体育（運動）が楽しい」と回答する割合が 8 割以上	個人種目では友達との関わる場面を設け、集団競技では、チームのめあてを決めて、運動に取り組ませる。	感染症対策の影響で、授業中の児童同士の協力や対話が減ったが、「体育は楽しい」と答えた男子は 89.5%、女子は 85.6% だった。8 割台を切る集団はなくなった。	運動の楽しさを味わうために、体育授業のスタンダードとして、協力や競い合いを今後も取り入れていく。	○
(3) めあてをもって運動し、運動後には、取り組んだことを振り返る。	児童アンケートで「運動のめあてをもって取り組んでいる」と回答する割合が 8 割以上	授業の終末に、低学年は「がんばったこと」、中高学年は、運動のめあての「振り返り」を発表させる。	「めあてをもって運動した」と回答した児童は男子が 83.3% で、女子が 87.3% だった。5 年男女と 6 年女子は、8 割に届かなかった。	中学年から、運動のめあてをもち、振り返りを行うことを体育授業のスタンダードとし、意欲的に取り組む児童を育てていく必要がある。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【重点的な取り組みー1 学力向上】

- ①区学力調査の2科目平均通過率は85.6で、区全体の83.7を1.9ポイント上回りました。
- ②家庭学習は、低学年が9割以上、中・高学年は男子90.2%、女子96.2%となり、家庭学習の習慣が定着しました。
- ③9月（前学年問題）の漢字コンテストでは、2～6年の受検者438人中、257人が合格し、合格率は58.7%でした。
- ④漢字コンテストは9月に加えて、2月（現学年問題）にも行い、漢字の読みと書きの習得を図ります。
- ⑤区調査（算数）や単元テストで、すばやく正確に解答できるよう、BS（ベ－シックスキル）タイムに計算能力を高める指導を行います。
- ⑥授業を「主体的・対話的で深い学び」とするために、足立スタンダード型授業を全学級で実施します。
- ⑦授業に対する学習意欲と理解を高めるため、高学年で「予習型自主勉強」を推進します。
- ⑧1年は、ひらがなの定着と言葉の理解を図るため、MIM（特殊音節の定着と語彙の獲得を図るトレーニング）学習に力を入れます。
- ⑨2～6年は、主要5教科の基礎基本を定着させるため、タブレット端末でAIDリルを活用した学習を行います。

【重点的な取り組みー2 品格向上】

- ①「きまりを守っている」児童（中・高学年）の割合は、男子95.6%、女子97.5%で、規律ある行動の心がけが定着しています。
- ②「友達との関わり」2項目ができている児童（中・高学年）の割合は、男子88.9%、女子96.1%で、友達とのよい関係ができています。
- ③「挨拶、靴揃え、廊下歩きの三名人として行動している」児童の割合（男子84.7%女子93.4%）を維持し、一層の定着を図っていきます。

【重点的な取り組みー3 体力向上】

- ①中休みのT（トレーニング）タイムを活用して、弱点種目である20mシャトルラン（持久力）に取り組み、20mシャトルランの結果が向上しました。
- ②今年度調査でも、長座体前屈（柔軟性）は7集団が区平均を下回ったので、来年度も引き続き、重点種目として取り組んでいきます。
- ③中休みには、らんらんランニング・短縄大縄・鬼ごっこ遊びなどの心肺機能を高める運動に、期間を設けて取り組みます。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

【次の時代をたくましく生き抜く力を育む学校をめざして】

本校は足立区立学校として、区の教育大綱を具現化するために、学力、品格、体力の3つを柱にしたバランスの良い教育活動を行います。また、児童の人格完成を目指し、将来、社会の形成者となり得るために必要な資質を育みます。それには、教職員、保護者、地域が一体となって教育活動を推進することが不可欠です。本校が「児童が通いたいと思う学校」、「保護者が我が子を通わせたいと思う学校」、「地域にとって誇りであり、愛着を感じる学校」となるよう、校長はリーダーシップを発揮して、三者の力を結集していきます。

ここに掲げる崇高な理念が具現化できるよう、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ①開校70周年行事を終えて、児童の愛校心が高まり、保護者・地域との連携を強めることができました。
- ②コミュニティ・スクール（学校運営協議会設置校）として、PTAや開かれた学校づくり協議会と連携して、児童の健全育成や安全確保、特色ある教育活動の充実を図ることができました。
- ③近隣の5つの保育施設や幼稚園（城北）、中学校（四中）と連携して、一貫性のある教育活動を推進しました。
- ④特別支援の2教室（難聴言語と情緒障がい）設置校として、児童に対する個別の支援を充実させました。